

2022年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社HANATOUR JAPAN  
 代表者名 代表取締役社長 李 炳 燦  
 (コード番号：6561 東証グロース)  
 問合せ先 取締役経理財務部長 田中 一彰  
 (TEL. 03-6629-4755)

## 通期業績予想の公表に関するお知らせ 及び一時的な債務超過について

当社は、本日2022年11月14日開催の取締役会において、未定としておりました2022年12月期の通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 当期の連結業績予想数値の修正 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 期 実 績 (A)	864	△2,023	△1,959	△1,968	△178円33銭
今回公表予想 (B)	1,895	△1,482	△1,493	△700	△61円33銭
増 減 額 (B - A)	1,030	541	466	1,198	
増 減 率 ( % )	119.2	—	—	—	

(単位：百万円)

	前期末実績	2022年12月期第3四半期末	2022年12月期末 (予想)
自己資本	1,279	△22	513

#### 2. 修正の理由

新型コロナウイルス感染症の収束時期、旅行需要等の回復時期の想定が困難な状況が続いていたため、2022年12月期における業績予想を未定としておりましたが、国内旅行需要並びに、インバウンド旅行需要も水際対策緩和の影響により回復傾向にあること、航空各社における国際線の増便の発表等、直近の市場動向に鑑み、2022年12月期において新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、変異ウイルス等の感染の再拡大に伴う大規模な市場環境の悪化等が発生しない可能性が高い見通しとなったことから、業績予想を算定いたしましたので公表いたします。

当連結会計年度の売上高は、韓国を中心に東南アジア圏からのツアーパッケージ、貸切観光バスの予約状況が増加傾向にあり、運営している各ホテルのADR（客室平均単価 2021年12月期は5,655円）、稼働率（2021年12月期は30.0%）が回復傾向にあることから、前期比119.2%増の1,895百万円を見込んでおります。一方で足元の市況は、本格的な回復には至っておらず、売上原価、販売管理費を吸収できないことから、営業利益は△1,482百万円（前期は営業損失2,023百万円）、経常利益は△1,493百万円（前期は経常損失1,959百万円）を見込んでおります。

また、ホテルセンレン京都東山清水の定期建物賃貸借契約解約による解約合意金の受領等により724百万円の特別利益計上を見込んでおり、親会社株主に帰属する当期純利益は△770百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失1,968百万円）を見込んでおります。

これらの結果、当会計年度末の自己資本は513百万円となる見込みです。

### 3. 一時的な債務超過について

2022年12月期第3四半期連結会計期間末において自己資本の額が△22百万円と債務超過となっております。これまで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、コスト削減の徹底、金融機関からの融資、第三者割当増資による資金調達など、財務基盤の強化に努めてまいりました。

今回、事業構造改革の一環として取組みました、上述したホテルセンレン京都東山清水の解約に伴い受領する解約合意金等により、特別利益の計上を見込んでおります。

当連結会計年度末2022年12月末時点の自己資本の予想は513百万円と、債務超過は当連結会計年度末には解消される見込みです。

以後、現在回復傾向にある旅行需要の獲得に注力し、更なる財務体質の強化を図って参ります。

(注) 本資料に記載されている当社の業績予想については、本資料の作成時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上